

## 編集にあたって

『総合都市研究』の第23号は、「特集 都市防災研究（その8）」と名付けて編集された。この特集号は、第2号の（その1）以来、第20号の（その7）に至る「特集 震災予防研究」を踏襲したもので、その内容は震災研究の報告が主体である。都市における大規模地震災害は複合災害であり、そのような視点に立てば、多くの災害研究は地震に関連付けて論ずることもある程度は可能かもしれない。しかし、それには自ら限界があり、都市防災上、きわめて有意な論文でも特集号に馴染まない等の理由で本誌への掲載を遠慮されたケースもあろうし、防災研究それ自体、複雑化した都市構造・システムに対応して多様化しつつある。

また、今年度、本センターに「都市防災・安全部門」が設置され、専任研究員が着任した。この部門は、当面、昭和52年の本センターの設立と同時に発足し、この特集号を支えてきた「震災予防に関する総合的研究」プロジェクトを担当し、その推進に務めることになるが、部門名が示すように都市防災全般にかかわる問題を研究課題とする。そのためには、より広い分野の学内外の研究者の協力が必要となる。

以上のような現況と将来展望に基づき、本号より特集号の名称を「特集 都市防災研究」と改め、広い分野からの投稿を期待することにした。本号でいえば、昭和57年長崎豪雨災害関連の報告がその事例である。また、比較的最近のこの特集号に少なからず掲載されるようになってきたソフト・ウェア的な研究はここにも含まれている。それらは、災害時の人間行動・死傷者発生のプロセスなどに関するものであり、現在のところ理工系の研究者のみによってカバーされているこのような研究側面も、本センターの体制の充実に伴い、人文・社会科学等の研究者の協力が得られ、一層発展する日は近いと信ずる。さらに、昨年度退職された本学名誉教授中野尊正先生による私共の研究のあり方についての講演を収録でき、本年度も引続き指導いただけたのは誠に心強い限りであり、そのご厚情に心から御礼申し上げる。

その一方で、本センターにおいて発足の当初から震災予防研究グループを御指導いただいた丸井信雄先生が来春3月をもって定年退職されることは何とも致し方のないこととは言え、都市研究センターにとっても都市防災研究にとっても大きな痛手であると言わねばならない。

また、本センターへとやがて発展する「都市研究会」の誕生以来、私共を育て、終始ご指導を賜わってこられた本学名誉教授田治米辰雄先生が、昭和59年12月23日、急逝されたことは私共にとって痛恨の極みである。

ここに、両先生に深甚の謝意を表わすとともに、私共はこのような事態を厳粛にうけとめ、都市防災研究を一層充実させるべく研鑽に励むことを誓いたい。また、丸井先生には、今後ともご指導賜わらんことを心からお願い申し上げます。さらに、慎んで故田治米先生のご冥福をお祈り申し上げます。

本号を、丸井信雄教授の退官記念号として、献呈いたします。

加えて、故田治米辰雄名誉教授の追悼研究特集号と位置付け、慎んで先生のご霊前に捧げます。

(震災予防研究グループ)